

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 03

学校名・団体名	山辺町立作谷沢小・中学校
HPアドレス	https://www.town.yamanobe.yamagata.jp/site/sakuya/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学べる学校図書館づくりをとおして情報活用能力の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>子どもたちが行きたくなる図書館、本を読みたくなるような図書館づくりを行い、学びの中心となる図書館の整備を推進する。</p> <p>図書館の蔵書のコンピュータ管理化や環境整備・充実により、図書の貸し出し数等の増加や朝読書、読み聞かせによる読書の幅、質を高めることにより、一層の図書館利用の増加と児童生徒の読書活動の充実を図る。</p>	

<活動・研究報告>

子どもたちが行きたくなる図書館、本を読みたくなるような図書館づくりを行い、学びの中心となる図書館の整備を進めた。

小中併設極小規模校という特色を生かし、2つの図書館をつなぎ、小学生ではさらに詳しい内容を中学校図書館の本で調べたり、中学生は図鑑等が充実している小学校図書館で調べ学習や小学校の内容に戻って復習したりできる図書館を目指した。また、電子化することで、少ない人数でも図書の管理や貸し出しが容易にできるように整備を進めた。さらに、学習コーナーと読書コーナーを設け、読書コーナーは子どもたちが親しみやすいように展示の仕方を工夫し、行きたくなる図書館づくりに取り組んだ。

1 電算化と小中図書館のネットワーク化（6月～8月）

児童生徒、教職員も少なく、委員会活動も少ない人数の上、学校司書、専門に担当に専念できる教員もおけないので、小中とも蔵書の電算化を図り、図書の管理、貸し出し等の簡易化を進め、利用しやすい図書館にした。また、電算化の図書の登録には、保護者や地域のボランティアの方々の協力を得て作業を進めた。さらに、小中併設校の利点を生かし、小中の図書館を校内LANでつなぎ、児童生徒が小中どちらの図書からも利用できるように整備した。

電算化後は、小学校低学年でも自分で操作できるようになり、貸し出しや返却が容易になり、貸出冊数が増加したとともに、中学生が調べ学習に小学校の図鑑等を利用するなど少しずつ小中の図書の相互活用も増えてきている。

2 学習センター・情報センターとしての機能の充実

(1) 学習センターとしての活用（通年）

小学校図書館にはタブレットPCを常設するとともに、小・中学校ともには電子黒板も図書室に設置した。各学年の発達段階に応じたICT機器の活用を積極的に進めた。電子黒板を設置したことにより、ICT機器を活用できる学びの場としての図書館、授業ができる環境が整い、小学校では外国語活動をはじめ、理科、社会などの授業で日常的に活用している。中学校でも数学、社会を中心に活用している。さらに、総合的な学習の時間を中心とした調べ学習やまとめ、レポート等に利用している。特に中学生は、タブレットPCを活用し、総合的な学習で取り組んだ「ふるさと学習」をパワーポイントでまとめ、県の「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」に応募し、優秀賞を獲得した。

(2) 情報センターとしての整備（通年）

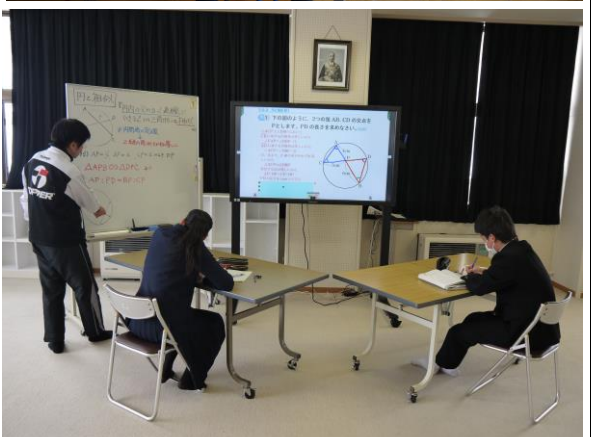
書籍以外のパンフレットなどの資料や新聞記事などの収集、保管、活用のための整理なども少しずつ取り組んでいる。さらに、授業でのまとめやレポートなどもデータ化し、保管・活用を図っているところである。

3 学校図書館視察（11月）

図書館の整備を進めるために、図書館教育、読書教育の先進校の視察を行った。市全体が取り組んでいた鶴岡市内の学校を予定していたが、近隣市町村にも優れた先進校があるので視察先を変更した。同地区にある、昨年度子ども読書活動優秀実践校を受賞した天童市立山口小学校と隣の市である山形市の山形市立西小学校の2校を小学校、中学校それぞれの図書館の担当の教諭が視察した。図書の展示や掲示物など児童生徒が図書館に行きたくなる環境整備を学び、本校の図書館整備の参考とした。

4 図書の配置替えと環境整備（8月～12月）

視察した先進校のよい点や児童生徒にもアンケートを取



り、どんな図書館であれば今以上に活用するようになるか等を考慮して整備を進めた。

①学習コーナー、読書コーナーなどを設けるために図書の配置換えを行った。



あわせて、スチール本棚等の危険性のある書架の撤去を行い、高すぎる書棚は低いものに変更した。②パネルサインや図書の展示の仕方、掲示物の工夫などを行った。③本の移動は児童生徒全員で行い、併せて図書館の図書の並びの規則を学んだ。④小学校の図書館には、今まではなかった靴を脱いで本が読めるカーペット敷きのコーナーを設けた。低学年の子ども達を中心に読み聞かせやくつろいだ中で本に触れるなど大いに活用されている。



5 朝読諸活動（通年）

小中とも学校図書館を活用した朝読書活動を週3日（残りは朝会等）実施している。自由に選択させていると偏った分野の本だけになる。そこで、児童生徒による本の紹介や教師側からのお薦めの本などを提示し、様々な分野の本に広く親しむように工夫するとともに、児童会や生徒会の活動として子どもたちのお薦めの本なども紹介する活動を行った。



6 読み聞かせ活動（通年）

児童生徒の読書の幅を広げ、読書の質を高め、読書の体験を深めるために読み聞かせ活動を様々な形態で行った。

(1) ボランティアサークルによる読み聞かせ（7・11月）

町の読み聞かせボランティアサークル「てんこもり」に依頼し、夏休み前、冬休み前に読み聞かせを実施した。本校の特色を生かし、小学1年～4年グループ、小学5・6年中学1年グループ、中学2・3年グループに分けて行った。小学1年～4年グループの2回目は、新たに小学校図書館に設けるカーペット敷きのスペースで行った。



(2) 中学生による小学生への読み聞かせ（1月）

小中併設校という特徴を生かし、中学生による小学生への読み聞かせを、中学校の生徒会が企画し実施した。朝の読書の時間を利用し行った。中学生は、本選び、読み方の練習などを行った後、各教室に出向き行った。

(3) 地域のボランティア、教職員による読み聞かせ（2月）

地域コーディネーターと打合せをしながら、地域の方で読み聞かせ等に興味のある方をつのり実施した。今年度はじめての取り組みで、2名の方の協力いただき実施した。水曜日のロング昼休みに図書館のカーペット敷きのコーナーで行った。自由参加としたが、低学年中心にたくさん子どもたちが集まった。



以上のような図書館の図書のコンピュータでの管理や環境整備・充実により図書館の活用が高まった。さらに、朝読書や読み聞かせによる読書推進活動により子どもたちの読書の幅と質を高めることができた。これからも継続することで一層の図書館利用の増加と児童生徒の読書活動の充実が図られると考えている。